

もっと知りたい!「UDフォント」

人は日常の生活を送るなかで、たくさんの書体と触れ合っています。テレビや動画配信のテロップの文字、携帯で友達とやりとりする文字、教科書や参考書の文字。意識はしていないけれど、街にもたくさんの書体が溢れています。電車の車内表示の文字、大きなポスターのキャッチコピーの文字、ペットボトルの文字など探してみると、人は文字からさまざまな情報を受けとっていることがわかれると思います。

◆「UDフォント」ってなんだろう？

みなさんは「UDフォント（書体）」という言葉を知ったことがあるでしょうか？

UDフォントの「UD」とはユニバーサルデザインのことで「文化、国籍、年齢、性別、障害の有無や能力差などを問わず、より多くの人が見やすいデザイン」という概念になります。そして、UDフォントは、その概念を受けて「より多くの人に見やすく、読みやすく、間違いにくく、伝わりやすい書体」をコンセプトに作られたフォントのことです。

この「より多くの人に」というのが大切なポイントで、多数派の読みやすさに合わせるという意味ではなく、高齢者や視覚障害者、発達障害者など社会的少数派の読みにくさを抱える人に寄り添いながら、多くの人々の読みやすさも損ねない書体という意味です。

具体的に説明すると、一般的な明朝体は横線が細く、縦線が太いという特徴があります。また、漢字の横線には三角形の「ウロコ」と呼ばれる部分があり、筆のおさえや「はらい」などの形状がデザイン化され、残っている書体です。高齢者は歳とともに近くのものかぼやけたり、遠くの看板が霞んだりして、見えにくくなります。細い部分に見えにくさを感じるかたが読みやすいように、横線であってもしっかりと太さを保った「BIZ UD明朝」（図1）が開発されました。



【図1】BIZ UD明朝の特徴

世の中にはロービジョン（弱視）のかたも、光の眩しさを強く感じるかたもいます。そのかたがたにとっては、明朝体よりも一定の太さが保たれていて、形もシンプルなゴシック体が読みやすいといわれています。「BIZ

UDゴシック」（図2）は、さらに濁点・半濁点の誤認をなくすように大きく、親字（濁点・半濁点のないもの）の文字から離してデザインされています。また英数字が瞬間的に見ても誤認しにくいよう一文字一文字でも読み間違いにくい工夫がされています。

サインに使用される一般的なゴシック体

8S6 I711 ゴプ象

BIZ UDゴシック

8S6 I711 ゴプ象

【図2】BIZ UDゴシックの特徴

◆UDフォントの社会的背景

また、「ディスレクシア」と呼ばれる障害を知っているでしょうか？ 視覚・聴覚に異常がなく、文字の読み書きの能力に著しい困難さがあり、主な原因は脳内の音韻処理にあるといわれています。知的には問題がないので、学び方を変えたり、周りの環境が変わったりすると、障害が軽減されるともいわれています。

視力の弱いかたが眼鏡をかけることによって読みやすさが軽減されるように、あるいは足の不自由なかたが松葉杖や車椅子を使うことによって移動ができるように、読み上げ機能の使用や読みやすい書体の変更などデジタルによるサポートがあることで、他の友達と同じように学ぶことができます。しかし、知的に問題がないことで障害がわかりにくく、なかなか周囲の理解が伴わず「努力が足りない」と思われがちです。そのなかで辛い思いをしている子どもたちも少なくないのが現状です。

2016年には「障害者差別解消法」という法律が施行され、障害は人でなく社会にあるとして、自治体や学校・公共機関では、不便を感じているかたたちに寄り添って建設的な話し合いのもと、何らかの「合理的配慮」をしなくてはならないことが法律でも定められました。

◆UDデジタル教科書体

UDフォントの話に戻すと、学校現場で読み書きに困難を抱える子どもたちやその支援をしているかたがたのヒアリングをもとにデザインされた教科書体があります。「UDデジタル教科書体」という書体で、今は多くのパソコンに標準搭載されている書体です。(図3)

一般の教科書体は、筆の筆法が残る楷書をベースに、子どもたちが学びやすいように少し整理した書体です。ただし、ロービジョンの子は線の細い部分が見えにくいので、教科書体のように線の太さに強弱があると、どこがなぞるべき線なのか捉えにくいということがあります。視覚過敏の子は「はらい」や「はね」の先端が尖っていて自分に刺さってくるようで怖い、ストレスになるということもあります。また「山」の一面めなど、筆をぐっと押し付けた形状が気になって文字を読めないという子もいます。視覚認知に課題がある子は、このグッと押さえた部分を一面と見なして強調して捉えてしまうということもあるようです。日本語学校では筆文化をもたない留学生も、筆の入りやおさえなどの形状が理解しにくいときいています。

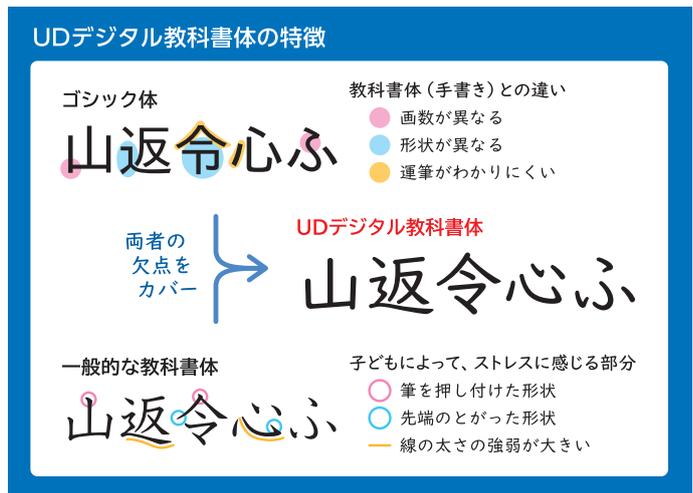
そういった何かしら読み書きに困難を抱えている子どもたちには、一定の線の太さが保たれていて形がシンプルなゴシック体や丸ゴシック体が読みやすいとされていました。ですが、手書きの教科書体と印刷字形のゴシック体は、画数が異なっていたり、形状が省略されていたりと多くの違いがあり、先生がたが文字を教えにくいのです。

教えやすく学びやすい形状の教科書体、読み書きに困難を抱える子どもたちのストレスがない丸ゴシック体のよい部分を取り入れて開発したのが、「UDデジタル教科書体」です。この書体は、電子黒板やタブレットの活用といったICT(情報技術)を取り入れた学校現場で、障害のあるなしに関わらず、多くの子どもたちにとっても読みやすいと効果を発揮しています。

◆UDフォントの活用について

このように、「UDフォント」にも、対象者や目的に合わせていろいろな書体が開発されています。

そして、「UDフォント」に変えたからといって、その紙面や表示が読みやすくなったとは限りません。例えば、みなさんが手書きでポスターを書くとき、タイトルは強調されるように、太めのマジックで大きく、見出しを中太のサインペンで、本文は細めのサインペンで少し



【図3】UDデジタル教科書体の特徴

小さく書くというように、パソコンで制作するときも、文字の形状や太さを考えてフォントを選び、文字の大きさや文の行間など、読み手の立場になって配置することが、読みやすい表示をするのに大切になります。

このように文字を配置することを「組版」と呼び、フォント選択と同様に、読みやすい伝わりやすい資料作りには欠かせないポイントになります。(詳しくは、教育出版『ことばだより』2020 春号 p.12-15に掲載: https://www.kyoiku-shuppan.co.jp/tsushin/files/20ss_01kokugo.pdf)

街の中ではどんなところに「UDフォント」が使われているのでしょうか？

多様な人が乗車し、遠くからも見やすいことが求められる電車の車内表示、多様な子どもたちが学ぶための教科書や教材、子ども向けの辞書、お年寄りが読み間違えると事故になりそうな薬の処方箋、さまざまな住民が読む自治体からの配信物、アレルギーなど見落とすと生死に関わる食品の成分表示など、多様なかたが生活するうえで情報を届けるための公共物や、情報を受け取るうえで差別があってはならない場面で効果を発揮しています。

最後に、書体は、楽しい、かわいい、力強い、優しいなイメージを伝える役割もあります。どんな場面でもどんな書体が使われているのか？「UDフォント」だけでなく、ぜひ、さまざまな書体たちに関心をもって触れてほしいなと思います。

*その文字のもとになる「書体」をデザインしている「タイプデザイナー」という職業の人がいます。「タイプデザイナー」は、文字が使われる時代、紙やタブレットなど表示される媒体、また、読み手となる対象者やその目的によって、適した書体を見なさんが選択できるように、いろいろなデザインの書体を世の中に提供しています。

株式会社モリサワ 営業企画部 公共ビジネス課
高田裕美